

令和5年度 学校だより

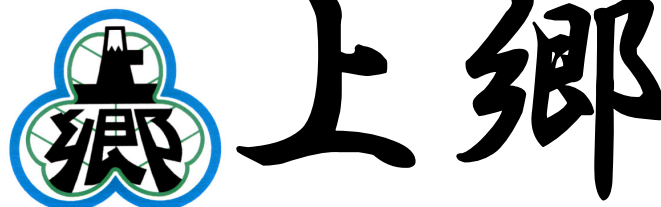
3月号

横浜市立上郷小学校

〒247-0026 横浜市栄区犬山町6番1号

電話 045-894-0761

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamigo/>



幸せは気づくもの

学校長 海津 善宜

桜の木は、花が散ったとき、すでに翌年の花芽はできているのだそうです。また、その花芽はとても小さくて硬いもので、暑い夏を越し、秋を経て、冬の寒さを経験することで、一年かけて開花するためのホルモンを自ら作り出すそうです。厳しさを経験したからこそ、次の春に見事に花を咲かせることができるということなのです。令和5年度もいよいよ最後の月となり、上郷小学校の子どもたちにとって大きな節目の時を迎えようとしています。今の「小学〇年生」は、一生で一度しか経験できません。それならば、残りの時間を何となく過ごすのではなく、最後まで持てる力を最大限に発揮しながら毎日を積み重ねてほしいと思っています。たとえ、目標に達することができないものがあっても、全力を尽くしてやり切った経験は、必ずこれからにつながるはずです。3月は、節目でもあり、次のステージとの「のりしろ」になる時期とも考えられます。子どもたちには、残りの時間をまとめと準備を意識して、有意義に過ごしてほしいと思っています。

さて、皆さんは、「令和5年度は、幸せでしたか」と聞かれたら何と答えますか。いきなり聞かれたら困ってしまう質問だと思います。私もそうです。アメリカのピアニストで作曲家のオスカー レバント (1906-1972) は、「幸せは経験するものではなくて、あとで思い出してそれと気づくものだ」という言葉を残しています。幸せの感じ方は、人それぞれですが、「もっと〇〇だったら…」と思う人が多いのではないのでしょうか。実は、私もこの言葉と出会うまではそうでした。今、自分が置かれている環境を、客観的にみると、「毎日、帰る家があること」「毎日挨拶をする家族や友達、同僚がいること」「毎日、ご飯が食べられること」など当たり前だと感じていたことが、多くの人のお陰で毎日を過ごせている幸せだと気づきました。コロナ禍で当たり前のことが当たり前でなくなった時期がありました。この経験をした私たちだからこそ、当たり前感謝ながら、自分の手元に今あるものに「気づく」ことで幸せな気持ちになれるのではないかと思います。もちろん幸せになるために何かを「築く」努力をすることは大切なことです。子どもたちには、それと同時に、今の幸せに「気づく」努力も大切にしてほしいと思っています。そこから、お互いへの感謝の気持ちが生まれることもあるのではないのでしょうか。

19日には、68名の6年生が卒業します。卒業生と保護者の皆様に心からお祝い申し上げます。この一年間、地域の皆様、PTA 役員をはじめ保護者の皆様、学校ボランティアの皆様、本校の教育活動にご理解・ご支援をいただいたすべての皆様に、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。子どもたちは多くの人との触れ合いの中で、よりよい人間関係を築きながら成長していきます。どうぞ、これからも上郷で育つ子どもたちへ励ましの言葉やお気づきになったことなどのお声掛けをお願いいたします。来年度も引き続き、変わらぬご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

